

海面養殖業振興対策費のうち 新たなノリ色落ち対策技術開発事業（継続）

1 趣 旨

近年、瀬戸内海をはじめ、主要な生産地で栄養塩不足によるノリ色落ち（品質の低下）が頻繁に発生し、ノリ養殖業の経営のみならず地域経済に深刻な影響を与えていている。

これまでの調査研究の結果、ノリの色落ちの原因是、秋季から春季における養殖シーズンに、ノリと栄養塩を競合する珪藻赤潮の頻発と海域の栄養塩レベルの低下に起因し、その原因として水質規制効果の行き過ぎが挙げられているところである。

このため、新たにノリ養殖漁場における最低限必要な栄養塩レベルや色落ちの原因となる大型珪藻の抑制手法等を検討し、将来にわたりノリ色落ちを発生させることなく、ノリを安定的に生産する体制の整備を図ることを目的とする。

2 事業内容

沿岸海域の栄養塩管理技術の開発（継続）

陸域、海域、底質等からの栄養塩の供給過程やノリ漁場周辺の栄養塩の消長を明らかにするとともに、珪藻赤潮としてノリ養殖の大きな障害となっている大型珪藻（ユーカンピア）の生態を明らかにすることにより、その発生を抑制しつつ、ノリ養殖漁場に適正な栄養塩を供給することが可能な水質レベルを維持・管理する手法・手段を開発する。

3 委託先

民間団体等

4 事業実施期間

平成22年度～平成26年度

5 平成26年度概算決定額（前年度予算額）

26,248千円（29,165千円）

6 担当課

水産庁栽培養殖課 03-3502-0895（直）

海面養殖業振興対策費のうち 新たなノリ色落ち対策技術開発事業

平成26年度概算決定額：
26百万円(29百万円)

栄養塩不足によるノリ色落ち(品質の低下)対策のため、ノリ漁場周辺の栄養塩の供給過程やその消長の解明、栄養塩を競合する大型珪藻の発生の抑制によるノリ養殖漁場に適正な栄養塩を供給することが可能な水質レベルを維持・管理する手法・手段の開発。



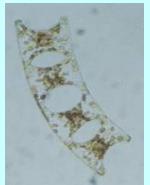
養殖ノリの
生理生態学的
機能の解明



ノリ養殖に必要な栄養
塩レベルの把握



栄養塩の競合

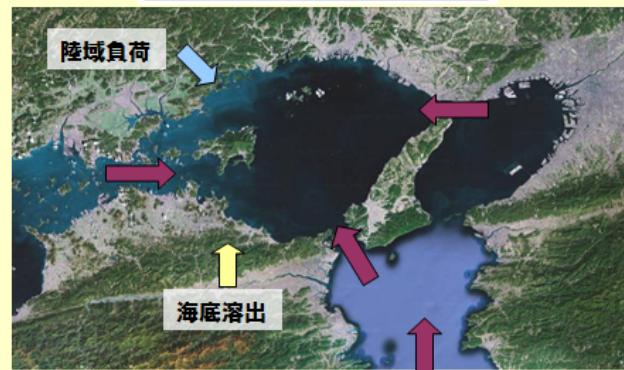
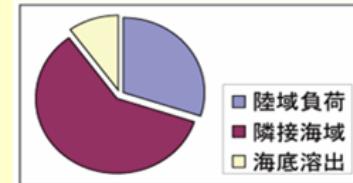


珪藻類の
生理生態学的
機能の解明



大型珪藻の
発生の抑制

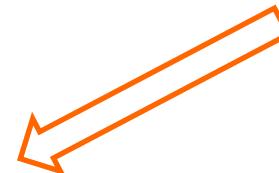
東部瀬戸内海の栄養塩収支
(現場観測, 安定同位体比解析, モデル解析)



・委託先：民間団体等

・事業実施期間：
平成22～26年度

ノリ漁場および周辺海域に
スケールダウンし、栄養塩収支を評価



ノリ養殖の持続的な生産を維持する
ための栄養塩管理手法の開発